

GREEN RANGER NEWS

2026 年 8 月号 Vol.381



NPO 法人蔵王のブナと水を守る会事務局
〒989-0231
宮城県白石市福岡蔵本字滝下101 番地 1
URL <http://www.zao.org/>
e-mail mail@zao.org

今回の8月号は以下の報告となります。

- ・5月3日 春を食べる会
- ・8月4日 荒浜海岸林 活力剤散布
- ・8月9日 枝打ち 自然観察
- ・8月23日 青少年野営場の観察

注)5月3日に開催されました春を食べる会の活動報告が抜けておりましたので、今回報告させていただきます。

■5月3日(祝日) 春を食べる会、山菜採り、自然観察、枝打ち体験

4 月末からの暴風や前日の雨で開催が心配されましたが、晴れて風もなく無事に春を食べる会を開催することができました。

一般参加者は、宮城県農業高校科学部 8 名と OG1 名、顧問の先生、宮農の一般応援団が6名で、計 16 名。会員は久しぶりの方の嬉しい参加があり 14 名、合計で 30 名。10 代が 10 名も参加し、久々に賑やかな「春を食べる会」となりました。

最初にブナの苗を記念植樹し、午前中は山菜採り・自然観察班、カメラ班、調理班に分かれて活動。お昼近くになって皆が帰ってくると、いよいよ 3 つの鍋で天ぷら揚げ。ああでもない、こうでもないとなげやかにタラノメ、コゴミ、ウド、コシアブラ、アイコ、スミレ、安部さん持参のタケノコ等を揚げていく。お浸しはコゴミ、ウルイ、アイコ(1 袋分を茹で忘れて申し訳ない)等、ウドは生で。ワラビとイタドリは事前に調理済みを頂く。事前に収穫してくれた仲村さん、四釜さん、ありがとうございます。大槻さんは今年もタケノコご飯を、安部さんはヤギ乳を持ってきてくれました。とても美味しかったです。ご馳走様でした。高校生は初めて食べる山菜もあったでしょう。イタドリは不思議そうに食べていました。孫世代との「春を食べる会」は、本当に楽しいものとなりました。

食後は安部隆子さんによる絵本の読み聞かせ。『羽出庭分校と正子さん』(絵:さいとうしゅういち、文:しまずのぶこ)という絵本で、令和元年台風 19 号で亡くなられた丸森町の正子さんのお話です。高校生が真剣に聴いていたのが印象的でした。隆子さん、読み聞かせをありがとうございました。

午後、高校生は彩遊の森で不条枝を伐る作業。ブナが育っているエリアで、伐るのはほとんどがブナ。開いたばかりのブナの葉は明るいグリーンでとても美しく、伐るのは忍びなかったのですが、ブナが成長するためには必要な作業です。高校生たちは、初めての森での体験を楽しんでくれたようです。これからも元気に活動してくださいね！

(参加者:30名)



最初に自己紹介



会員も自己紹介



ブナの苗を記念植樹



記念植樹の杭を立てる



準備された山菜



食事準備開始



調理班は大忙し



森の説明



自然観察



山菜採り



初めての山菜も食べてみる



山羊乳も飲んで満腹



絵本の読み聞かせ



枝打ち作業に挑戦



枝打ち作業、なかなか伐れない



最後にみんなで記念撮影

■8月4日(火) 荒浜海岸林 活力剤散布

定例会の海岸林活動が 7/12、7/26 と大雨により中止となりました。そこで、今日から猛暑になりそうだったので、定例会とは別に、宮城農業高校科学部が開発した「桜色活力剤」の3回目の散布をしました。散布した 11 本は枯死することなく伸びています。ただ、高木となったヤマハンノキは、かなり葉が枯れていました。枝を広げて他の低い樹々を暑さから守ってくれています。ヤマハンノキが守ってくれなかったら、他の樹々は枯死したかもしれません。頼もしいヤマハンノキたちに、心の中で「ありがとう！何とか暑さを乗り越えてね。」と伝えて帰りました。

(2 名参加)



ウワミズザクラ②



アカシデ②



ケヤキ⑤



イヌザクラ



ケヤキ⑨



カスミザクラ⑤



ミズキ③



コナラ①



ブナ①



アベマキ⑤



イタヤカエデ②



キノコ



落ち葉



枯れ葉-1



枯れ葉-2

全景

■8月9日(日) 枝打ち 自然観察

7月の例会は2回続けて雨により中止となったため、久々に植林地へ。今日は曇り空。

作業小屋に着くと、四釜さんが木工に使う枝の輪切りに機械を使ってヤスリをかけていた。粗削りだった断面が白く手触りが良くなり、これで子どもたちに安心して手渡すことができる。四釜さん、ありがとうございます。

午前中は、アナグマの森とリスの森で枝打ちと自然観察。車道まで伸びている枝を伐りながら、アナグマの森へ。まだ緑色のヤマブドウの実を見つけて「この次来たら採ろうね。」と約束したけれど、場所が分かるかなあ？ 唯一実をつけたブナの実は大きくなっていた。しかし、実をつけている木は1本しか見つけられなかった。菊地さんが他の土地との境界の刈払いをしてくれたおかげで歩きやすく、アナグマの穴にも近づくことができた。

昼食中に雲行きが怪しくなって雷まで聞こえてきたので、昼食後に解散し、仕事が残っている人は彩遊の森へ。頭上で鳴り響く雷の音がすぐ近くに聞こえたため、早足でカメラを設置している水場へ行き、急いで戻った。オオバギボウシの紫色の花がとても綺麗だったが、写真を撮る余裕もなかった。作業小屋に着く前に雨が降り出し、刈払いの場所の確認へ行った二人は、濡れて戻ってきた。

ああ、今年の定例会は、なんと雨が多いのだろう!?

(10名参加)



エゴノキ



ミズキ



ヤマウコギ



オニドコロ



ウリノキ



ツルアジサイ



カエル:リスの森



セミの抜け殻



ヒカゲチョウ



タケニグサ



笹のミシン目(昆虫の食痕)



クマの齧り跡か:リスの森

■8月23日(日) 青少年野営場の観察

当会は国立南蔵王青少年野営場での植林活動を1990年から始めている。森作り報告書には、1990年1月に県水産林業部に協力を要請、3月の臨時総会においてグリーンレンジャー結成の承認。同じく3月に東北大学農学部西口親雄先生に指導を依頼。4月にグリーンレンジャーの募集を県庁記者クラブで発表し新聞に掲載。5月に野営場にてグリーンレンジャー結成式と植林祭(ヤマハンノキ300本、ウワミズザクラ50本、ミズナラ50本を植える)を行っている。

国立の施設である野営場を借りられたものの、当時の野営場は裸地とススキの荒れ地で種をまいても発芽しなかった。そこで畑でポット苗を育て、やっと1993年に植林祭を行うことができて本格的な森づくりが始まった。大変な苦労はあったものの、キャンプやコンサート、屋久島や礼文島等への旅行もあり、この時期は楽しい思い出も盛り沢山である。

※詳しい内容については、『蔵王の森の物語～蔵王のブナと水を守る会25周年森作り報告書～』をご覧ください。

今日散策した野営場は、当時の面影が全くなくなっていった。しかし、私たちが植えたと思われる場所が森になっているのを見て、『みんなで大変な思いをして植えた苗木が、未来へつながった』と思い嬉しかった。途中で、元会員と久しぶりに出会い、お互いに元気に活動しているのを確認できた。樹々と違い建物は古くなったものの、そのまま残っていて、総会や研修会、コンサートなどの思い出が浮かんできた。また、小さかった子ども達が探検に出かけて迷子になり、必死で探し回ったことも思い出した。

お昼を食べながら、「来年は春に来たいね。」「毎年、春・秋に来ることにしよう。」と話した。この野営場も私たちが関わった場所であり、若い時代の大切な思い出の場所でもある。現在の植林地と共に今後も見守っていききたい。

では、皆さん、来年春には野営場での観察会をお楽しみに！

(7名参加)



出発



A サイト案内図



A, B サイト案内板



B サイト案内図



B サイト案内板



第1, 2 キャンプセンター案内板



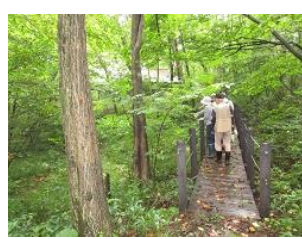
第2 キャンプセンター案内板



第2 キャンプセンター



ナナカマド



せせらぎコース



ヒガラトイレ



カシワマイマイ



ヒガラ炊事場



イラクサ



アキグミ



エゴノキの実



コバギボウシ



サギソウ



サンショウ



チドメグサ



ドンギリ:ミズナラ



ナンブアザミ



ノリウツギ



マンサク



ミソハギ



ヤマジノホトギス



ヤマブドウ



レンゲショウマ